

# 地域医療連携だより

## ■血管外科からのご案内

### 下肢閉塞性動脈硬化症について

近年食生活、生活様式の欧米化や高齢化に伴い動脈硬化（血管の老化）は増加の一途をたどっております。動脈硬化性疾患では狭心症、心筋梗塞をはじめとする虚血性心疾患や脳出血、脳梗塞をはじめとする脳血管疾患の認知度は高く予防を含め確立されています。

しかしながら大動脈から下肢動脈における動脈硬化性疾患である閉塞性動脈硬化症は患者さまの認知度は極めて低く、下肢の間欠性跛行（歩行時の痛み）や安静時の痛み、虚血性潰瘍があっても整形外科、皮膚科などの科を訪れることが多いのが現状です。

しかも下肢の閉塞性動脈硬化症は動脈硬化の末期像と称され、虚血性心疾患、脳血管疾患の合併頻度は30%と非常に高率であり、多くの患者さまは動脈硬化性疾患で亡くなります。また糖尿病、高脂血症、高血圧、喫煙、年齢、透析されている方々などが危険因子となります。性別では男性に多い傾向にあります。

当院では非侵襲的で簡単な血圧脈波（ABI：上肢と下肢の血圧比）や皮膚組織灌流圧（SPP）による下肢の血流の評価も当日施行可能です。また画像による検査としては、MRI、CT、超音波、カテーテルを使った血管造影の検査などが施行可能です。

こうした予防、診断はもちろんのこと、入院での外科手術治療（血栓内膜摘除術、バイパス術）やカテーテル治療（バルーン拡張、金属ステント、下肢ステントグラフト）、外科手術治療とカテーテル治療を組み合わせたハイブリッド治療も専門的に行っておりますので、気軽にご相談ください。

特に糖尿病や腎不全にて維持透析中の患者さんは引っかき傷、白癬、外傷などから足が感染し、急速に壊疽へ進行することも多いので気になる方がいらっしゃいましたらご相談いただければ幸いです。

### 血管外科 梅田 有史



治療前



治療後



浅大腿動脈ステントグラフト ゴア®パイアパーン®



### 梅田 有史 TOMOFUMI UMEDA

■川崎医科大学平成12年卒

■専門医・認定医

日本脈管学会評議員

日本静脈学会評議員

三学会構成心臓血管外科専門医

日本脈管学会専門医

下肢静脈瘤血管内焼灼治療実施医

日本外科学会専門医

日本血管学会血管内治療認定医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

### ■血管外科 外来担当表

行田総合病院新南棟 1F		月	火	水	木	金	土
午前	診察室 1	三井医師	三井医師	梅田医師	手術	三井医師	梅田医師
午後	診察室 1		梅田医師	三井医師	手術	梅田医師	